



自凝島神社

由緒略記

日本三大鳥居の一つ 高さ21.7m

おのころ島神社社務所

〒656-0423 兵庫県南あわじ市榎列下幡多415

TEL&FAX 0799-42-5320

<http://www.freedom.ne.jp/onokoro>

おのころ島 自凝島神社までの案内図



- 西淡三原インター
- ↓
- インター信号西路左折
- ↓
- 志知信号左折
- ↓
- 西川信号左折
- ↓
- 榎列小学校つきあたり右折
- ↓
- おのころ橋
- ↓
- 大鳥居(自凝島神社)



おのころ島 自凝島神社までの交通案内

神戸方面より	車 (70分)	明石海峡大橋 → 西淡三原I.C下車・左折 → 志知交差点左折 → 西川交差点左折 → 榎列小学校つきあたり右折スグ → 当神社
	高速バス ①(79分) ②(61分)	①三ノ宮バスターミナル → 福良行き → 榎列下車 → 徒歩10分 → 当神社 ②高速舞子 → 福良行き → 榎列下車 → 徒歩10分 → 当神社
徳島方面より	車 (35分)	鳴門海峡大橋 → 西淡三原I.C下車・左折 → 志知交差点左折 → 西川交差点左折 → 榎列小学校つきあたり右折スグ → 当神社
	高速バス (34分)	福良 → 舞子行き → 榎列下車 → 徒歩10分 → 当神社

※淡路交通株式会社本社代 兵庫県洲本市栄町1丁目2-9 TEL.0799-22-3121



おのころ島 自凝島神社境内正面



天の浮橋分社と五十鈴川

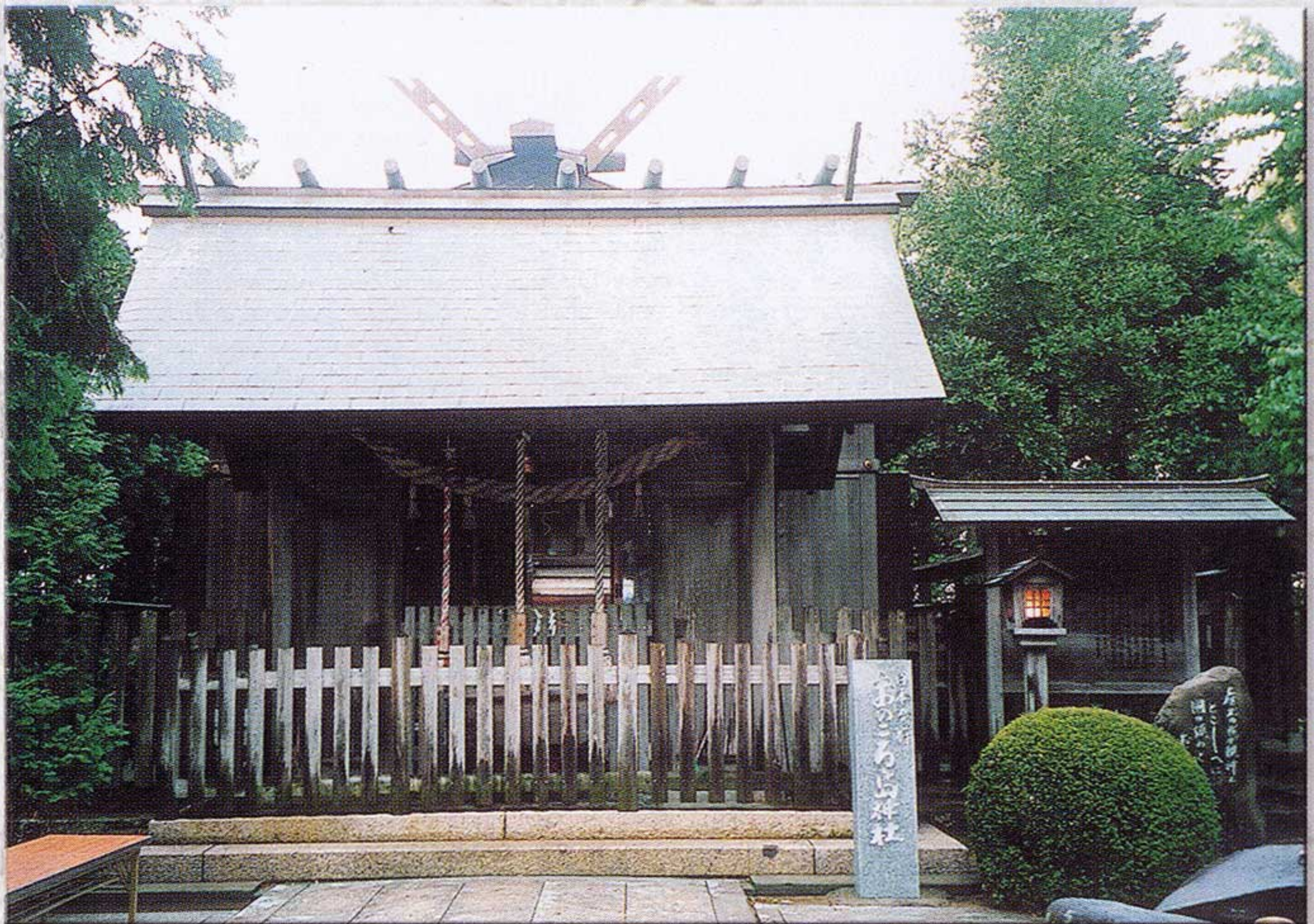
セキレイ石

セキレイ:日本書紀に、「にはくなふり」の可憐な仕草により夫婦の道を開かれたとあります。この小鳥は、夫婦円満の御神鳥として崇められています。



歌碑(平成五年五月)

おのころの社に詣で
日の本の真の民と
なれし思いに
鈴木哲也 作



おのころじま
▲自凝島神社正殿

おのころじま 自凝島神社の概説

◎当神社は、古代の御原入江の中にあつて、伊弉諾・伊弉冉命の国生みの聖地と伝えられる丘にあり古くから、おのころ島と親しまれ、崇敬されてきた。古事記・日本書紀によれば、神代の昔、国土創世の時に二神は天の浮橋にお立ちになり、天の沼矛を持って海原をかき回すに、その矛より滴る潮が、おのずと凝り固まつて島となる。これが自凝島である。

◎二神はその島に降つて、天之御柱を立て八尋殿を造り、男神は左から女神は右から御柱をめぐつて、女神は『あなにやしゑをとこ』（あなにやしゑあ美しきかな、ゑは嘆息の助詞）、男神は『あなにやしゑをとめ』とのたまひ、国産みをされたが、はじめ女神の方が男神を誘ったので成功しなかった。わが国の控え目な女性観が物語られている。

◎二神はそこで天神の命を請い、太占（うらない）に従つて、今度は男神が女神を誘い、ふたたび御柱をめぐつて国産みに成功することが出来た。そして、

- ① 淡道島（淡路島）
- ② 隠岐島（隠岐島）
- ③ 伊伎島（壱岐島）
- ④ 佐度島（佐渡島）
- ⑤ 吉備児島（児島半島）
- ⑥ 大島（瀬戸内海大島）
- ⑦ 知訶島（五島列島）
- ⑧ 伊予の二名島（四国）
- ⑨ 築紫島（九州）
- ⑩ 津島（対島）
- ⑪ 大倭豊秋津島（本州）
- ⑫ 小豆島（小豆島）
- ⑬ 女島（姫島）
- ⑭ 両児島（男女群島ならん）

等が次々と産まれた。

御祭神

伊弉諾命（イザナギノミコト）
伊弉冉命（イザナミノミコト）

合祀

菊理媛命（キクリヒメノミコト）
別名ククリヒメノミコト

摂社

八百萬神社

御神徳

健康長寿・良縁堅固
夫婦和合・安産の塩砂

御祭日

春 大祭 五月三日
夏 祭 七月八日
八百萬神社 九月一日



▲天の浮橋



▲安産のお砂所



▲葦原の国



▲八百萬神社

産土の我が親神よ
とこしへに国の鎮めとおわすこの神



▲御神木